

安全衛生のポイント

A decorative pink ribbon graphic that starts as a wide horizontal band and then loops into a bow-like shape on the right side.

安全衛生教育テキスト

は じ め に

災害は一瞬の『不注意状態』から発生することが多く、それらの原因は1人ひとりの健康状態や、職場や家庭での悩みごと、または工場内の環境に問題がある場合とがあります。

災害が発生するには原因があります。それらは予知・予防することにより未然に防ぐことができます。かけがえのない財産である社員の皆様が、健康で安全に仕事が進められるように、ここに「安全衛生のポイント」をまとめてみました。

安全の定義

1. 安全なくして生産なし(安全第一)
2. 安全のルールを守ることが自分・家族を守る
3. 不安全な状態を作らない
4. 不安全な行動をしない

目 次

- | | |
|--------------|--------------|
| ①出勤・始業ミーティング | ⑨見学者へのマナー |
| ②服装 | ⑩班長・安全推進員 |
| ③喫煙 | ⑪高所作業 |
| ④保護具 | ⑫災害事故が発生したとき |
| ⑤就業制限 | ⑬火災を発見したとき |
| ⑥自動化設備 | ⑭安全と健康 |
| ⑦整理整頓 | ⑮災害にあわないために |
| ⑧通路確保 | |

1

出勤・始業ミーティング

…… 健康自己チェック

その日1日が安全に仕事ができるかどうかは、朝起きたときからの行動にも左右されます。

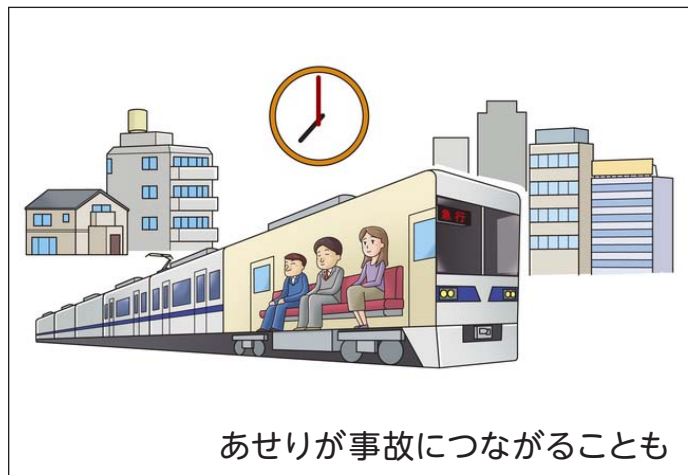
■朝食はしっかりとって



■健康状態を確認



■ゆとりを持って出勤



■積極的にあいさつ



健康自己チェック項目

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 頭痛がする | 6. 熱がある |
| 2. めまい・ふらつき・耳なり | 7. 心臓の具合が悪い・どうき |
| 3. 手足のしびれ・けいれん・筋肉痛・腰痛 | 8. 出血している |
| 4. 腹痛・下痢・便秘 | 9. 咳・くしゃみ・鼻水がでる |
| 5. 胃の具合が悪い・胃痛・はきけ | 10. だるい・眠い |

2

服装について

…… いつも清潔に

作業服は工場内でのユニホームであると同時に、正しい服装は自分自身を守ります。

帽子は正しくかぶる。

洗濯して、いつも清潔にしておく。

ヘルメットをかぶる時は、きっちるかぶって、あごひもをしっかり締める。

袖口・えり元は、きっちり締める。
長袖の腕まくり禁止。

安全靴をはく。
靴ひもを締め、かかとを踏まない。

破れたり、著しく油で汚れた作業服は着用しない。

3

喫煙について

…… 決められた時間と場所で

「火気厳禁」場所はもちろんのこと、喫煙場所以外では喫煙しない。

■休憩場所で喫煙する



喫煙しない仲間を、思いやる気持ちが大切です。



4

保護具について

…… 自分の身は自分で守る

仕事の内容に応じた保護具を、身につける習慣をつけましょう。



遮光メガネ・防じんメガネ



防じんマスク



安全靴



安全帽・ヘルメット



耳栓



手袋



安全帯

■軍手使用時の注意

(作業内容によっては使用禁止)

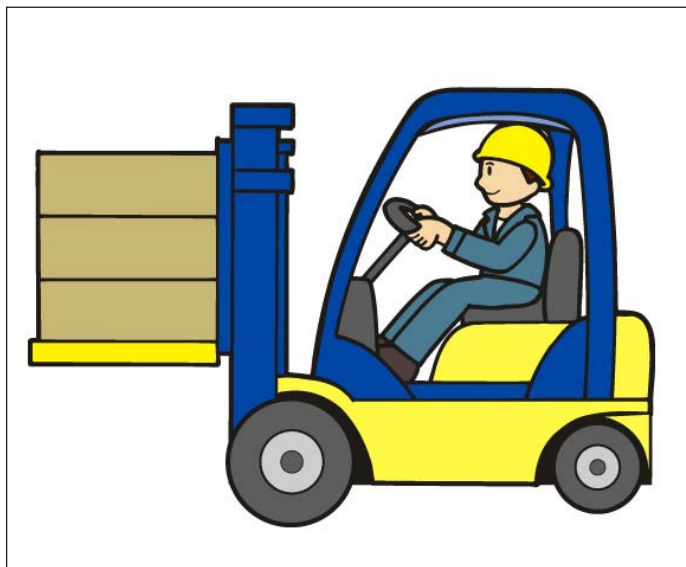
回転する機械などでは、手を巻き込まれる危険があります。



5

就業規則

…… 有資格者が行う仕事

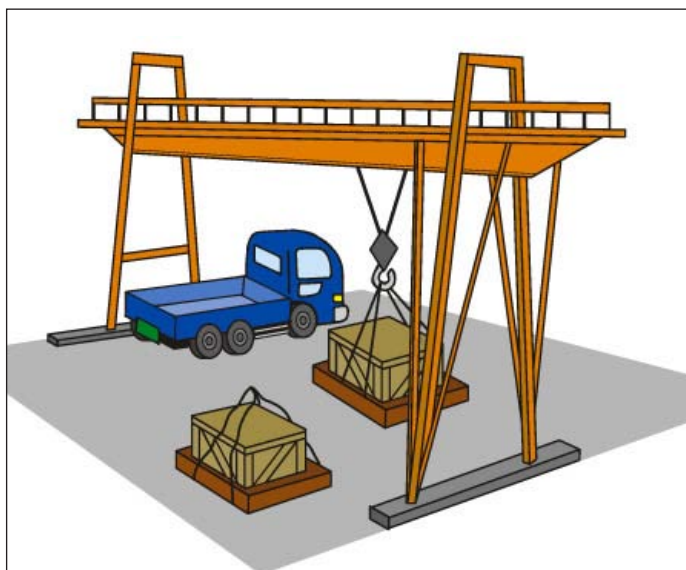


フォークリフト ⇒ 技能講習



ガス溶接 ⇒ 技能講習

アーク溶接 ⇒ 特別教育



クレーン ⇒ 免許・技能講習・特別教育



玉掛 ⇒ 技能講習

6

自動化設備

…… 安全柵内立入禁止

自動化設備は、コンピューターからの指示により運転されているので、いつ動き出すかわからない危険をはらんでいます。

■立体自動倉庫ロボット等の中に入らない。



柵内に立ち入る時は

1. 責任者の許可を得る
2. 電源を遮断する
3. “点検中”や“さわるな”の表示を行う



7

整理・整頓・清掃

…… 安全はまず整理・整頓から

整理とは … いらない物を捨てる。

整頓とは … 元の場所に、使いやすいように戻す。

■ 常に使いやすい状態にしておく



■ 決まった場所に返す



■ 汚したらすぐに清掃する。



■ 長尺物は横に寝かせる。



整理・整頓・掃除がしっかりできていないと、自分自身はもちろん仲間にも迷惑をかけます。
ゴミの選別処理に協力すること。



通路確保

…… 通行中の災害をなくそう

通路は物を置くスペースではありません。

汚したらすぐに
掃除する



通路帯を歩く

■ 通路に物を置かない

無断で道路上で
作業をしない



フォークリフト・
運搬車を通路の真ん中に
駐めたままにしない

9

見学者へのマナー

…… 気持ち良く見学していただく

「見学に来ていただいているんだ」というねぎらいの気持ちを持って、見学者を迎えてください。

笑顔で会釈または
目礼する

質問された時は
知らないフリをしない
丁寧に返答

危険作業中は
注意を呼びかける

ゴミなどが落ちていれば
自らすすんで拾う

見学者には、気持ちの良い印象を持って帰っていただきましょう。

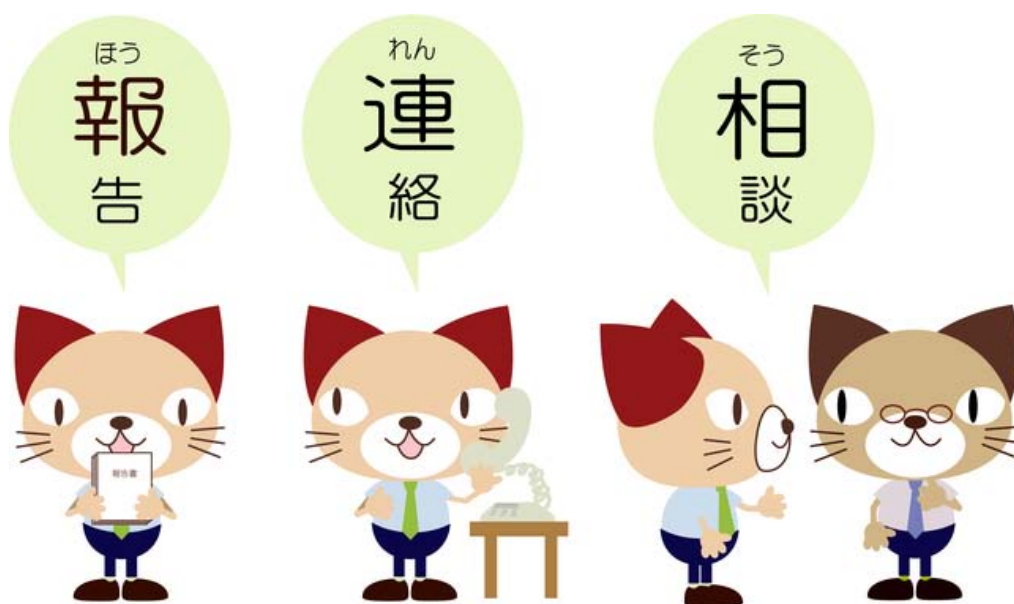
解らないことは自分で判断せず、班長・安全推進員に聞いてから仕事をしましょう。

■解らないことは質問する

- ・仕事の手順
- ・機械の操作
- ・ポイント



班長・安全推進員の指示に従う



『報・連・相』を実行し、災害を未然に防ぎましょう。

11

高所作業

…… 墜落・転落・落下の防止

高所作業は、自分自身はもちろん、周りや下で仕事をしている仲間にも注意します。

- ・工具や材料を落とさないよう固定しておく。
- ・命綱をつけるフックは高い位置につける。
- ・荷を持って脚立やはしごを登らない。
- ・はしごは固定する。
- ・吊り荷の下に入らない。
- ・踏台移動はしごを使用する。
- ・共同作業はお互い連絡・合図をしながらする。
- ・荷の上に乗らない。
- ・高所作業車は車止めをする。



災害事故が発生したときは…

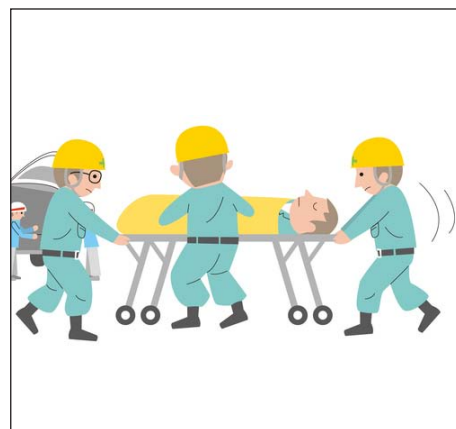
軽傷の場合



ケガをしました！

動けないときは担架を使用

重傷の場合



負傷者を動かさない

班長に連絡



応急処置をする

班長・安全推進員の
指示に従う

班長に連絡



救急車を呼ぶ

★当社安全推進員に報告すること。

★日頃から担架の位置と使用方法を確認しておきましょう。

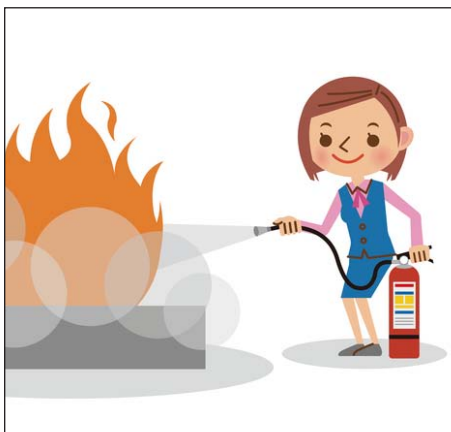
火災を発見したとき

…… 素早い処置が被害を最小に

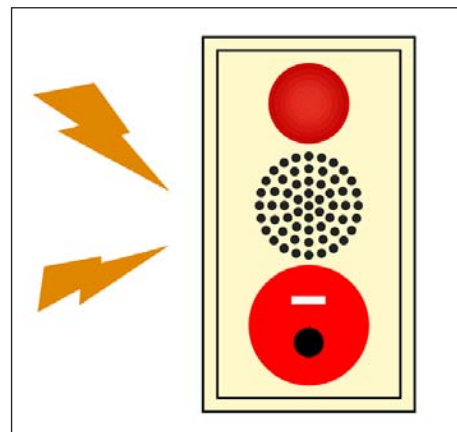
火災が起きたときは…



大声で周りに知らせる



初期消火にあたる



火災報知器を押す

火災が大きい時は
守衛室に連絡



日頃から消火栓や
消火器の位置と使用方法を
確認しておきましょう。

事故は一瞬にして発生し、失うものも大きな場合があります。思いがけない事故を境に、人生が暗転してしまった人も大勢います。しかも、その事故の原因は、本人の「不注意状態」によるものがほとんどなのです。

■意識の迂回(白昼夢)

手先は動いているのに、頭の中は他のことを思っている状態。



不注意災害の70%

■情緒不安定

すぐカッとなったり、おろおろしたりする。



■心身の疲労

疲れていると周りの状況に素早く反応できない。また、状況の変化を正しく捉えられない。



■人間関係のまずさ

上下・先輩後輩・仲間同士の間がしっくりいかないと伝達がうまくいかないという結果を招く。



■動作の簡略化と習慣化
(簡素化の法則)

“面倒だ”“近道をしよう”“慣れているから”といった心の働き。



■意識のとぎれ
(高血圧・糖尿・卒中)



■過信・自信

“よく知っている”“経験を積んでいる”などの過信。

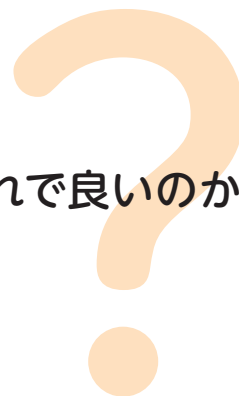
オレは何でも
知っているんだ!



■未熟さ

“機械や設備について十分知らない”
“知識や経験に乏しい”
“環境に馴染んでいない”

これで良いのかな?



不注意の要因
自分自身や仲間にある場合
工場内の環境にある場合

災害は、予知・予防することにより、未然に防ぐことができます。

■健康管理に努めよう。

- 休養する
- 定期健康診断は必ず受けましょう

■体にわるい

- 飲み過ぎ
- 煙草の吸いすぎ
- 睡眠不足

■心の悩みごとは早く解決しよう。

人は悩みごとがあると、それにとらわれてしまいます。それが、注意力・集中力を中断させてしまい、事故に結びつくという結果を招きます。悩みごと・心のうさは、早く捨ててしまうことです。

■ものごとは順序よく、一つひとつ段取りを考えて、決まりに従って運ぶようにしましょう。事故を防ぐ決めては、やはり「基本に忠実であること」にあります。

- 服装・保護具・設備・機械の安全点検
- 工具・危険物の正しい取扱い
- 整理・整頓

■職場のコミュニケーションを良くしよう。

お互いの信頼感・親密度をより深めていこうとする方向に、常に自分をさし向けておくことが、事故を防ぐ道です。まず、積極的に朝の挨拶から始めましょう。

■作業場の 5S を心がけよう。

整理・整頓・清掃・清潔・躰



お　わ　り　に

「安全衛生のポイント」について述べてきましたが、この内容を理解したにとどまらず、実行することが大切です。

自分自身が実行すると同時に、仲間にも実行させることが重要です。

どうか1日も早く、これらのことが習慣化され、
仕事が安全に進められますよう期待します。

株式会社新昭和　安全衛生委員会